

憲法9条の心

映画「日本の戦争」シリーズ全5巻 ご紹介

■ 日韓併合への道 30分

明治維新後、朝鮮半島支配をもくろみ雲揚号事件を起こした日本は江華条約を結び半島侵略の第一歩を踏み出す。日本の雑貨が出回り、米が日本に運び出されたため米の値段が跳ね上がり、農村や都市の手工業が打撃を受けた。反日感情が高まり農民たちは反日の戦い、甲午農民戦争を起こす。やがて、半島や権益を巡り日清・日露の戦争となり、勝って半島の単独支配に道を開くと保護条約を押し付け、統監府を設置。反日義兵闘争が各地で勃発する中、安重根が朝鮮統監伊藤博文を暗殺。その半年後に日本は韓国を併合する。日韓併合に至る35年もの長い道のりとその歴史的背景を現存する遺跡や原風景、生存者の証言などで描く。

■ 朝鮮半島 植民地支配の実態 28分

韓国を併合し、朝鮮半島の植民地支配にのりだした日本はまず、土地調査事業を開始し農民から土地を奪う。1931年（昭和6）、中国侵略を機に半島はその後方支援としての役割を担われ、戦争遂行に必要な木材や鉄鋼、金属などの地下資源の調達に迫られる。また、皇民化教育により日本語を強要し言葉を奪い、創氏改名により名前さえも奪う。1941年（昭和16）太平洋戦争に突入するや半島にも徴兵制を敷き、徴用や強制連行を行う。北海道浅茅野海軍飛行場跡、美唄炭鉱、長野県松代大本営跡など、今なお日本各地に残るそうした強制連行、強制労働の痕跡を追う。

■ 太平洋戦争への道 中国大陸侵略 30分

日本は肥沃な土地と豊富な資源の眠る満州を「日本の生命線」と位置付け、1931年（昭和6）満州事変を引き起こし、清朝最後の皇帝溥儀を元首とする傀儡政権の満州国を樹立。こうした日本の武力侵略に中国各地で抗日闘争が繰り広げられ、撫順市の平頂山虐殺事件など各地で虐殺事件が起こる。また、満蒙開拓団を満州に送り込み、結果、中国の農民から土地を奪うことになり、ますます反日闘争を激化させていく。そして、1937年（昭和12）北京郊外の盧溝橋で日中両軍が衝突。本格的な日中戦争へと突入する。北京、天津を相次いで占領し、上海では無差別都市爆撃を行い、南京では敗残兵狩りを名目に虐殺を行う。抗日の戦いは激しさを増し、日中戦争は泥沼化していった。

■ 太平洋戦争と東南アジア 29分（制作協力 映像文化協会）

泥沼化する日中戦争。その打開の道を南進政策に求めた日本は1941年（昭和16）、ハワイ真珠湾攻撃の2時間前にマレー半島上陸作戦を敢行し、太平洋戦争へと突入していった。その目的はゴム、スズや鉄鉱石、石油という豊富な資源の確保とビルマから雲南省を経て重慶にいたる蒋介石支援ルートへの遮断であった。日本軍はシンガポールやマレーを占領すると華僑義勇軍、共産党員、抗日分子、重慶の国民政府への献金者などの摘発を目的に中国系住民を対象とした検証を行い、疑いのある人々を拘留しては虐殺していった。大勢の中国系住民が抗日軍ということで殺され、その犠牲者の数は未だつかめていない。その歴史的事実を現地に追ひ、元日本兵の証言に耳を傾ける。

■ 太平洋戦争と沖縄 35分

1944年（昭和19）の暮れ、米軍はB-29による本土空襲を開始。日本の殆どの都市が壊滅的打撃を受け、もはや日本の敗戦は決定的であった。しかし、大本営はあくまで本土決戦を叫び、沖縄では本土決戦の時間稼ぎのために持久戦の作戦が立てられ、根こそぎの総動員体制が敷かれた。1945年（昭和20）4月1日、米軍は総勢54万の大部隊で沖縄本島宜野湾の海岸に上陸。そして、4月8日、浦添丘陵で日本軍と米軍の死闘が始まる。米軍の戦史は伝える。「ありったけの地獄を一ヶ所にまとめたような戦闘であった」と。沖縄の戦いはまさに肉弾戦であり、そこは地獄の戦場だった。生き残った元日本兵、鉄血勤皇隊や学徒看護隊の人々の証言をもとに沖縄の戦いとその意味をみつめる。

昨年11月富士見町上映会での感想

できることならこの上映会はさけて通りたかった。見たくないと思った。忘れてはいけないということは分かるのだけれど…

学校では 教科書では 教えてくれない事柄ですよね。スタッフの皆さまありがとうございます。

映像としては初めてのことが多く、再認識したことも多い。

昨今の日本の右翼化に危惧を感じる。若者が日本の近代化過程の歪みを知ってくれることを望む。